コミュニティ・スクール（地域協働学校）の導入に向けて

1．コミュニティ・スクールとは・・・(定義)

コミュニティスクールとは、「学校運営協議会」制度とも呼ばれ、保護者や地域住民の意見が学校運営に直接反映されることを制度的に認め、学校の教育目標の設定や達成に協働して責任を果たす仕組みです。

宜野湾市教育委員会においては、はごろも小学校と宜野湾中学校を「学校運営協議会」設置校に指定しました。この「学校運営協議会」の設置校に指定された学校を宜野湾市では、地域協働学校と言います。

なお、地域協働学校（コミュニティ・スクール）は、平成３０年度、市内２校(モデル校）となりますが、平成３１年度以降、段階的に市内全小中学校で設置することになります。

2．コミュニティ・スクールの目的

地域でどのような子どもたちを育てるのか、何を実現していくのかという目標やビジョンを保護者・地域住民と共有し、地域と一体となって子どもたちを育む**「地域とともにある学校」**を作ることが目的で、**“社会総掛かりでの教育の実現”**を目指しています。

3．全校・県内のコミュニティ・スクール実施状況

文部科学省の調査によりますと、２０１７（平成２９）年４月１日時点で全国のコミュニティ・スクールの数は、３６００校（幼稚園 115 園、小学校 2、300 校、中学校 1、074 校、小中一貫の義務教育学校 24 校、高校 65 校、特別支援学校 21 校、中高一貫の中等教育学校１校）となっております。

本県においては、同じく２０１７（平成２９）年４月１日時点で、沖縄市の全小中学校２４校で導入されております。うるま市で５小学校、糸満市で、３小中学校で実施しています。

4．コミュニティ・スクール導入の効果

宜野湾市教育委員会が示したリーフレットによりますと、コミュニティ・スクール導入のメリットが掲載されています。特に、学校と地域の人々との関係づくりが、子どもたちの命や安全を守ることにつながるとともに、学力の向上、学校・地域の活性化といった、下記の成果が期待できると示されています。

(1) 子どもたちが変わる（生きる力の育成
(2) 地域の教育力を生かした学びの充実
(3) 自己肯定感や豊かな心の育成
(4) 地域への愛着、地域の担い手としての自覚
(5) 保護者が変わる（当事者意識）
(6) 学校や地域への理解の深まり
(7) 子どもたちが地域の中で育てられている安心感
(8) 保護者同士、地域の人々とのつながりの構築
(9) 学校が変わる（継続的な組織体制）
(10) 地域が変わる（地域づくり）
(11) 校長のリーダーシップのもとに学校のビジョンを地域の人々や保護者と共有
(12) 地域ネットワークの形成

5．コミュニティ・スクール導入一年目のはごろも小学校の方向性

はごろも小学校正門(西門）の石碑に刻まれている **「雄飛立身」** という文字が刻まれ、「世の中のために役立つ(社会貢献できる)」、世界にはばたいていくはごろもっ子」の育成を意味します。

はごろも小学校においては、平成３０年度より導入するコミュニティ・スクールを通して、**「雄飛立身」**の実現をめざしていきたいと考えています。保護者や地域と**学校教育目標**を共有し、連携・協働しながら、新しい時代に求められるはごろもっ子の資質・能力を育む教育活動をめざしてまいります。

Ｈ３０．はごろも小・地域協働学校の方向性

地域協働学校を推進するにあたり、平成30年度は、「ビオトープ」の活用と「地震・津波避難訓練」等、防災教育の実践を重点方針として推進してまいります。

ビオトープのせせらぎ

具体的な取組の一つとして、ビオトープに視点を置き、取組を推進します。私は昨年4月、はごろも小学校に赴任しましたが，開校当時のビオトープが変わり果てた姿にショックを受けた方も多くいたと聞いています。この状況から、環境アセスメントの名嘉猛留氏や保護者の有志の皆様が再生に向けて支援活動を進め、市教育委員会からも多大な支援を受けました。

平成30年度は、活用した授業並びに、それに伴う保全活動を保護者・地域と連携しながら進めていきたいと考えていきます。また、将来的には、地域の方にも開放して、ビオトープを地域のシンボルとなるよう推進していきたいと考えています。

蛇行を描くビオトープ

二つ目の取組として、「地震・津波避難訓練」の充実があげられます。沖縄県では、昨年１１月２日を「広域地震津波避難訓練」の日に指定し、本県市町村が実施する総合訓練で、携帯電話には本日10時７分に災害・避難情報が流されました。その一環として、はごろも小学校においても**「地震・津波避難訓練」**を実施しました。

本校の避難訓練には、宜野湾警察署、宜野湾市役所市民防災課が連携するとともに、真志喜自治会には、はごろもっ子の交通安全立しょう及び避難場所への誘導等、多大なご協力をいただきました。

学校での避難開始が９時45分、避難場所である森の川公園の頂上付近に全児童・職員が到着した時刻が１０時15分で、移動時間に30分を要しました。信号待ちで一定の時間がかかりましたが、はごろもっ子は、先生方の誘導・指示に従いながら真剣に避難訓練を行うことが一番大きな成果だと感じております。

私たちは、平成２１年3月11日に発生した「東日本大震災」の記憶を鮮明に残っています。

はごろも小学校は、海岸線に近く低地にある状況から、毎年「地震・津波避難訓練」を実施することが求められます。その意味で、「地域の子どもを地域で守る」という防災活動の一環として、３自治会（真志喜区、大山区、宇地泊区）と連携した取組が重要です。

森川公園内を早足で上る
はごろもっ子

来月3月11日は、市民防災課の主催のもと、各自治会単位で「地震・津波避難訓練」が実施されますが、はごろもっ子には、学校で学んだ防災教育を活かしてほしいと思います。また、保護者の皆様には、各自治会単位の防災訓練に協力し、協働体制で地域の絆を一つにする取組に協力いただきますようお願い致します。

最後に、今年の課題を踏まえ、平成30年度は、地域協働学校としての視点からビオトープを活用した環境教育の充実及び**「地震・津波避難訓練」**による防災教育の充実に努めてまいります。